

知恵の樹

growing in OZUKA

広島市立大学
附属図書館報

第73号 2017年4月
新入生歓迎号

タイトルの由来について

「知恵の樹」とは、“思想の発展”を象徴するものとして、また、この樹を植えることは知力の督励を意味するものとして古今東西を問わず知られている。この樹を図書館報のタイトルイメージとし、大学が立地するここ大塚の山において樹齢を重ねていきたいとの思いを込めている。

なお、この「知恵の樹」のモデルは、本大学正面入口にある1対の「楷(かい)の木」である。

図書館フロア紹介	2~4
図書館 Q&A よくある質問	5
「この人と話したい」学長対談紙面レポート 全国大学ピリオバトル出場	6~9
青木信之学長 × 田中優菜さん (芸術学部 2年)	
わたしの一冊 / LOOK HERE!	10



外観写真：橋本健佑

そうだ、図書館へ行こう！！

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

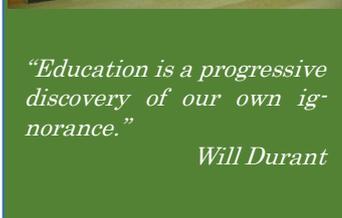
大学での学習は、「自分で調べる・考える・伝える」ことを多く求められます。「どうしたらいいの?」と思ったら、まずは図書館へ。図書館には、皆さんの総合的な学びをサポートするための資料・情報・空間が揃っています。これから始まる大学生活、図書館を学びの出発点のひとつにしましょう！



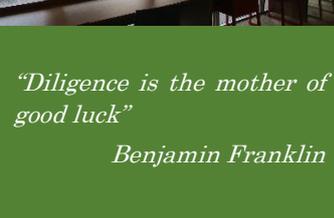
"Knowledge is power."
Francis Bacon



"The reading of all good books is like a conversation with the finest men of past centuries."
René Descartes



"Education is a progressive discovery of our own ignorance."
Will Durant



"Diligence is the mother of good luck"
Benjamin Franklin



館内フロア紹介

3 F



A 入退館ゲート



ゲートは入館・退館とも左側通行です。右側にあるカード読み取り部分に IC カード (学生証/職員証) をタッチするとゲートが開きます。退館の際にも同じ操作が必要です。



図書館を利用する時は、必ず IC カード (学生証や職員証) を持って来てください。

貸出手続きをしていない資料を持って退館しようとすると、ゲートを通ることができません。

※パウチカードの身分証や IC カードを忘れた、または持っていない場合は、カウンターに声をかけてください。

C ブラウジングコーナー



日本語の新聞 9 紙と外国語の新聞 7 紙 (英語 5 紙、ドイツ語 1 紙、中国語 1 紙)、新聞縮刷版があります。
*インターネット上で利用できる日本語紙および外国語紙のデータベースもあります。カウンターでお尋ねください。

B カウンター



図書の貸出・返却、図書館間の相互利用サービス (ILL) の申込みなど、図書館の様々なサービスを受け付けています。図書館の使い方や図書・論文の探し方など、分からないことがあれば、お気軽にご相談ください。

利用者区分	貸出冊数			貸出期間	
	図書	雑誌	合計	図書	雑誌
学部生	10冊以内	5冊以内	10冊以内	2週間	5日
大学院生	10冊以内	5冊以内	10冊以内	30日	5日
教職員	50冊以内	10冊以内	50冊以内	2ヶ月	10日

貸出(本を借りる)

借りたい資料(本や雑誌)と
学生証(または身分証)を持って、カウンターへ

返却(本を返す)

借りた資料だけカウンターへ

資料の検索するには?

図書館が所蔵する資料の情報は、附属図書館の OPAC (オンライン蔵書目録) で検索できます。OPAC は、館内の情報検索端末や図書館 Web サイトから利用できます。

【図書館豆知識】 図書館では、所蔵している図書・雑誌・新聞・AV 資料などをまとめて「資料」と呼びます。

D ラーニング・コモンズ
(愛称：いちコモ)



組み替え自由な机や移動式のホワイトボード、プロジェクター等が備わっており、本学の学生や教職員がグループワークやディスカッション、プレゼンテーション等を行うことのできるスペースです。利用目的に合わせて、グループでも一人でも、様々な使い方ができます。

ラーニング・コモンズとは

「Learn」=学ぶ、「Commons」=共有の場、を語源としています。「ラーニング・コモンズ」は、集い、議論し、共に学ぶ場所を提供することで、学生の皆さんの自主的な学習=アクティブ・ラーニングをサポートすることを目的としています。

E 自動貸出機 (ICカードのみ対応)



図書の貸出や延長ができます。画面の指示に従って操作して下さい。



利用する時は、ICカード(学生証/職員証)が必要です。

自動貸出機で貸出できる資料は図書のみです。雑誌や視聴覚資料などの貸出はカウンターで手続きをしてください。

PC 情報検索端末



いちコモに1台、3階に5台、1階と2階に1台ずつ設置しています。

※検索結果等の印刷はできません。

利用時には hunet アカウントとパスワードによる認証が必要です。利用後は、必ずログアウトしてください。

F コピー機



図書館の資料に限り、その著作物の一部分を一人一部コピーすることができます。

種類	料金	
白黒	10円	
カラー	B4まで	50円
	A3まで	80円



複写申込書に必要な事項を記入してカウンターに提出した後、利用してください。

両替機はありません。利用時には小銭を準備してください。

G 雑誌



↑1F 洋雑誌

和雑誌はタイトルの50音順、洋雑誌はアルファベット順に並んでいます。最新号の入っている扉の中に、約1年分のバックナンバーがあります。それより古いものは和雑誌が2階、洋雑誌は1階にあります。

H AVコーナー



図書館が所蔵するDVD、ビデオなどの視聴覚資料が利用できます。視聴の際には、ケースを持ってカウンターまでお越しください。

I オンデマンドプリンタ



インターネットコーナーのデスクトップパソコン及び貸出用ノートパソコンから出力できるプリンタです。

※利用方法は情報処理センター実習室に設置されているものと同じです。

J インターネットコーナー

デスクトップパソコンと、貸出用ノートパソコンがあります。印刷は館内のオンデマンドプリンタ(I)からできます。起動時にはhunetアカウントとパスワードによる認証が必要です。利用後は必ずログアウトしてください。



貸出用ノートパソコンを利用する時は、学生証を持ってカウンターで申し込んでください。

【貸出用ノートパソコンについて】

- ・館外(学内)での利用も可能ですが当日中(開館時間内)に返却してください。
- ・貸出用ノートパソコンには、マウス・イヤホンは付いていません。必要な方は持参してください。



デスクトップPC



貸出用ノートPC

K グループ閲覧室



グループ学習に利用できます。最大6名まで利用できる部屋が4室あります。利用申込は不要です。

その他には

市大コーナー…本学教員の著書や研究紀要があります。

平和研コーナー…平和に関する図書を集めています。

参考書コーナー…シラバス(講義概要)で「授業参考書」に指定された図書を集めています。



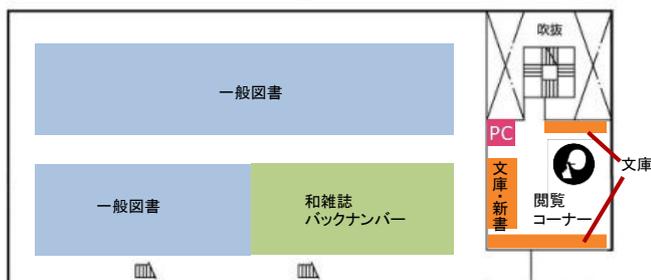
↑市大コーナー

←平和研コーナー

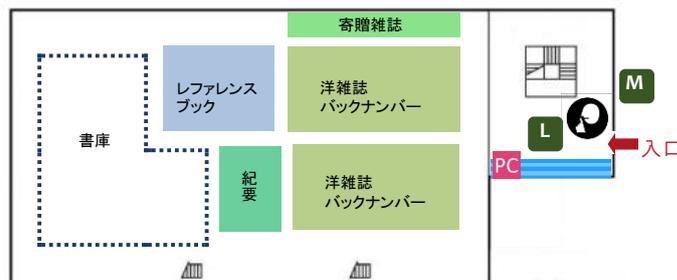


↑参考書コーナー

2 F



1 F



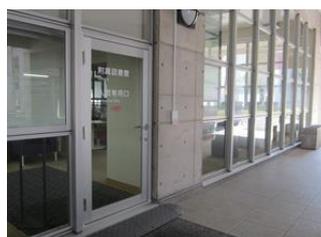
L 「いちだいちのトライアスロン」コーナー

教職員が「学生の皆さんに読んで欲しい!」と選んだ本やDVD、学生がブックハンティングで選んだ本を並べています。



英語の多読本もここにあります。

M 入館専用ドア (ICカードのみ対応)



1Fの入館専用ドアです。退館はできません。



パウチカードの身分証やICカードを持っていない場合は3階入口からお入りください。

この他にも、図書館でできることはたくさんあります。図書館の利用で分からないこと、困ったことがあれば、図書館職員に声をかけてください。

図書館 Q&A よくある質問

学生証を忘れた時はどうしたらいいですか？

【入退館】カウンターへ声を掛けてください。
【図書やノートパソコンの貸出】
学籍番号等で本人確認のうえ、貸出をします。

読みたい本が貸出中になっていました。
次に借りるにはどうしたらいいですか？

貸出中の本を「予約」することができます。カウンターで
お申し込みください。
OPAC からも予約申込みができます。

返却期限が迫っている本をもう少し
利用したいのですが。

「貸出延長」することができます。ただし、延長は 1 資料につき 1 回限りです。
延長するためには次の条件を満たしている必要があります。

- ・返却期限以前であること
- ・他の利用者が予約をしていないこと
- ・他に延滞中の本がないこと

希望する資料と学生証を持って、カウンターで「延長したい」と申し出てください。図書館内の自動貸出機または、OPAC を使って自分で延長することもできます。
※参考書など一部延長できない資料もあります。

本を返しに行ったら閉館していました。
どうすればいいですか？

閉館時の図書資料の返却は、図書館3階入口横のブックポストをご利用ください。

【図書館 3F 自動扉の外側】



【返却口】



他の図書館の本を借りることができますか？

附属図書館の窓口を通して広島市立図書館と広島県立図書館の本を借りることができます。カウンターで申し込んでください。

図書館内で自分のパソコンをインターネットに接続できますか？

自分のパソコンを持ち込んで利用できます。学内無線 LAN サービス(どこでも hinet)を利用するには、情報処理センターの利用方法を確認してください。なお、持ち込みパソコンからオンデマンドプリンタは利用できません。

古い新聞を見たいのですが…。

先月分から過去 1 年分は、2 階にあります。それ以前のは、(一部の新聞を除き)過去 3 年分までを保存していますのでカウンターへお尋ねください。また、原紙以外に縮刷版、マイクロフィルム、データベース等で見ることもできるものもあります。



←【図書館 2 階】

図書館の中で飲食はできますか？

資料の汚損防止、飲食物のゴミによる書虫発生防止、他の利用者への迷惑防止のため、図書館内での飲食を禁止しています。お弁当などの飲食物はバッグの中にしまおうか、図書館の入口右手にある無料ロッカー(利用は当日限り)に入れてください。

なお、「いちこも」内に限り、水筒やペットボトルなど万が一倒しても中身がこぼれないしっかりとしたフタ付きの容器に入った飲み物のみ利用できます。

図書館からの連絡はどのように確認したらいいですか？

図書館からの連絡(予約図書の到着連絡など)は、各自の大学発行のメールアドレスへ送信します。日頃からこまめに大学メールのチェックをするようにしてください。

また、緊急の場合は電話連絡をすることもあります。図書館からの電話(082-830-1508)から着信があった時は出るようにしてください。

数人で集まって発表の準備をしたいのですが、グループ閲覧室は使えますか？

グループ閲覧室はサイレントエリアです。複数人での資料調査や学習に利用できますが、ディスカッションやプレゼン練習をする際には、ラーニング・commons「いちこも」をご利用ください。

学長対談「この人と話したい」 紙面レポート

全国大学ビブリオバトル出場・田中優菜さん(芸術学部2年)



「この人と話したい」は、活躍している学生・卒業生・教職員から、学長が話を聞いてみたい人を学長室にお招きし対談する大学事務局の企画です。

田中さんは昨年冬、「全国大学ビブリオバトル 2016」で、本学での地区予選、中国BCブロック代表をかけた地区決戦を勝ち進み、京都大学での全国大会に出場し大健闘されました。

今回の『知恵の樹』では、ビブリオバトルや「いちだい知のトライアスロン」など図書館が関わるトピックを中心に、お二人の対談の一部をご紹介します。



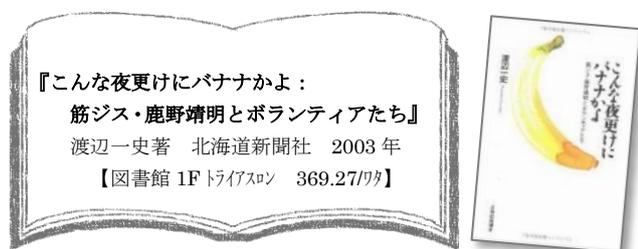
田中さんの紹介本『こんな夜更けにバナナかよ』は、実は、私が「いちだい知のトライアスロン」で推薦していた本でもあるんです。(学長)

学長: まずは、全国大学ビブリオバトルではご活躍おめでとうございます。京都大学で行われた全国大会は、全国の学生と交わるという点で良い経験だったと思います。本学の代表として地区決戦に行ってくださいと、そこでも勝ち、中国BCブロック代表として全国の決戦大会まで行き活躍してくれたこと、うれしかったですね。それと、田中さんがバトルで紹介してくれた本『こんな夜更けにバナナかよ』は、私が「いちだい知のトライアスロン」で推薦していた本でもあったので。

田中さん(以下敬称略): えっ! そうなんですか?

学長: 知らなかったんですか! 僕の推薦でこの本を知ってくださったと思ったんですけど、そうではなかったのですね(笑)。実を言うと、この本は僕が推薦したんです。それもあって、田中さんがその本をどういうふうで紹介してくれたのかとても興味があるのだけど、ちょっと実際に聞かせてもらうことができますか。

田中: ここですか? 所々忘れているかもしれませんが、ではやってみます!



— こんにちは! 広島市立大学芸術学部の田中優菜です。今日、私が紹介する本ですが、この本を読んでいると周りの人からしきりに「難しそうなお本を読んでるね」と言われました。題名は『こんな夜更けにバナナかよ』。かなりふざけたタイトルですが、みんなが難しそうというのには訳があるんです。副題は『筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち』。この本は重度の障がい者、鹿野靖明さんと彼に関わるボランティアの人々の日常を描いたノンフィクションなんです。

象徴的なエピソードがこのバナナです。鹿野さんは夜中にボランティアの人を叩き起こし、「バナナ食いたい」と言います。眠い目を擦りながらボランティアの人は「こんな夜更けにバナナかよ」と内心ひどく腹を立てながら、無言で食べさせます。ゆっくりと味わった後、「これで寝られる」というところで鹿野さんは言います。「もう1本!」と。ここでボランティアの方はひどく驚いた後に、急速に怒りが収まっていくのを感じます。私だったら遠慮もあり我慢する方を選ぶので、「鹿野さん、勇気あるな!」と思いました。わがままと言われても、「主張しなければ実現しない」という鹿野さんの信念が基になっています。

私はこの本を「勇気をもたらした」「感動した」などの安易な言葉で片付けたくはありません。生きるのを諦めないこと、人と関わることを諦めないこと、そんなメッセージが伝わってくる本です。障がい者についての本は難しいと敬遠せず、人生に悩んだときなど、多くの方に読んでもらいたい本です。—

学長: なるほど、僕とは逆の視点から読んでいますね。田中さんは障がいのある鹿野さんの視点から。僕の場合は、逆にボランティアの立場から読みました。私は最近「ひろしま論」の授業の中で、「知のトライアスロン」を紹介するとき、よく『こんな夜更けにバナナかよ』の話をするのですが、どういうふうで紹介するかという...

— この本の主人公の鹿野さんは筋ジストロフィー症を患いながら、自ら24時間体制のボランティアのシフトを組んで一人暮らしをするのですが、ボランティアの人たちは、北海道教育大学の学生さんなどで、授業が終わってバイトもして、夜の10時とか、つまりヘトヘトに疲れた体でボランティアのシフトに入るわけですね。ある時、ボランティアの国吉さんは鹿野さんのお世話を夜中の2時くらいに終え、やっと寝られるというところで、「国吉君、お腹すいた。バナナ食べる」と鹿野さんから言われる。それでやっと食べさせて、自分でも吐き気がするくらい眠くて、「やっと寝られる」という時に、「国ちゃん、もう1本!」と。その時、田中さんも言ったように、逆に怒りが収まっていったというのだけど、そこでボランティアは、突きつけられるわけ。自分がボランティアをしていることのだこかに思い上がりとか、わずかなんだけれど「してやっている」という気持ち。そこで、ボランティアの方が変わっていく。

そこが、この本はすごいなと思ったんです。自分がボランティアしていることのお気持ちというものに向き合わされる。介護の問題は僕自身も多少経験があるのだけど、いつも突きつけられる場があるわけですね。「よくやってるね」と周りの人が言うかもしれないが、自身ではどこで手を抜いているかわかっているとか。自分がボランティアしていることのお気持ちに向き合わされる。「こんな夜更けにバナナかよ」と相手に腹立たしく思ってしまう気持ち。そこがこの本で一番感動したところなんです。そういう本なので、よかつたら読んでみてください。—

学長: こういう感じで学生さんに勤めています。てつきり、田中さんもそれを聞いて読んでくれたんだと思っていました(笑)。

田中: それは全然知りませんでした。学長さんがこの本をそんなに読みこんでおられるとは驚きました。私は今回ビプリオバトルでこの本を紹介しましたが、周囲の人も一切読んでおらず、恐らく会場で聞いてくださった方々も読んでいらっしやらない。誰も読んでいない場に行って、「この本はこんな本です。ぜひ読んでみてください」というのがビプリオバトルの面白いところではあるのですが、やはり、こうして読んだ方と話せることがうれしいです。

ビプリオバトルに出てみたら、自分の中の何かが変わるかな、そういう期待もありました。(田中)

学長: それでは、本の話からビプリオバトルの方に話を移しますが、この本をもって、最初に本学で開催したビプリオバトルに出場しようとしたのは、どういうきっかけですか？



田中: 私は大学の附属図書館でライブラリー・アシスタントをしているのですが、最初のミーティングで司書さんたちに

勧められて。高校生のとき、文学部に入っていましたので、ビプリオバトルというものの存在は知っていたのですが、“バトル”という名称から、戦うのなら怖いかなという印象があり、すぐには積極的に関わろうとはしませんでした。文学でバトルというのは、好きでなかったというか、勇気が出ませんでした。

学長: 攻撃するみたいですよ。

田中: それからしばらくして、司書さんから「1人欠員が出て、田中さんよかったら出てくれない？」と再度勧誘され、これはもう神様が「出る！！」と言ってるんだなど。覚悟を決めて「出ます！」と言ったのが、始まりでした。

学長: では、最初はそのままで積極的ではなかったんですね。

田中: でも、人前で発表することは好きでしたので、出てみたら自分の中の何かが変わるかな、そういう期待もありました。

最後に勝つのは技巧ではなく、その本が好きという“気持ち”の強さでした。(田中)

学長: 実際に、勝ち上がって京都大学の全国決戦まで行くのだけど、そのあたりの様子はどうでしたか？

田中: 地区決戦の会場では、観戦された方から「あらためて障がい者について考えてみたい」という感想カードをいくつか頂いたのがすごくうれしかったです。私も障がいがある方の立場です。全国大会では、周りの発表者のレベルも高く洗練されていて、自分はまだ全力でいくしかないなど決意しました。もし勝てなかったとしても、一瞬でも障がい者についてあらためて考えてみたいというふうには思っていたら御の字だなという気持ちで当りました。

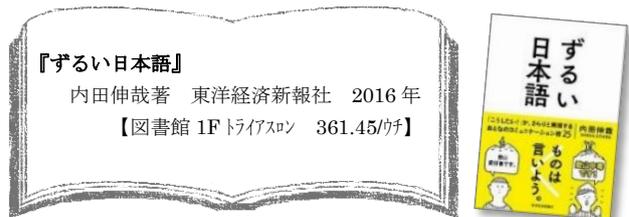
学長: 全国大会では、自分の本がチャンプ本になった人、

決勝に進めなかった人、いろいろあったと思いますが、全国から集まった発表者の様子はどうでしたか？

田中: それは皆さん洗練されていて、楽しんで聞きました。バトルではあるのだけど、相手を蹴落としてというような雰囲気はなく、純粋に「この本は面白いよ。読んでみて！」という気持ちが伝わってくるんです。また、あらためて伝える技術って大切だなとも感じました。会場が大爆笑するよ
うな、発表する・伝えるテクニックが突出している人もいれば、「この本が好きなんです！」という気持ちが真っ直ぐに伝わってくる人まで、いろいろな種類の発表者がいました。でもやはり決勝戦が一番面白かったです。



全国大会の決勝戦は、5名の発表者で争われたのですが、5名のうち最初の4名は結構面白い(笑わせる)個性が際立つ発表でした。例えば、いきなり栄養ドリンクの瓶を壇上で取り出し、「リポビタミンD！タウリン1000ミリグラム配合！という方が、1グラム配合！というよりも、すぐ入っているように聞こえますよね？同じ量でも日本語は」と、スピーチを始めたり。

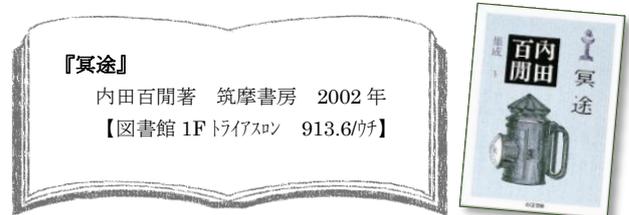


学長: それは何の本を説明した人？

田中: 『ずるい日本語』です。そういう発表方法に工夫を凝らした方が4名続き、最後の方1人だけが直球で純粋にその本が全面的に好きということを語られたんです。

学長: その最後の直球で勝負した人の本がチャンプ本になったんですね。

田中: そうなんです。やはり最後に勝つのは技巧ではなく、その本が好きという“気持ち”の強さでした。グランドチャンプ本は内田百閒の『冥途』で、卒論でもそれに専門に取り組まれた千葉大学大学院の方でした。



学長: それは面白いですね。

田中: 一番直球でした。でも、プレゼン技術という意味では他の方の方が会場を沸かせていました。

学長: インパクトがそれほどなかった感じだったのですね。

田中: はい。ちょっと意外に思ったのですが、やはり最後に勝つのは“気持ち”ということでした。それが今回一番感じたことでしたね。プレゼン能力も必要ですが、最終的にはその本が好きという“気持ち”の強さなんだと。

学長: それは良い勉強になりましたね。

私はこういう学長の仕事をしているため、相手にとって耳の

痛い話もしなければならぬのだけど、相手にうまく伝えるにはどう話せばよいかをいつも考えています。最終的には、今自分が話していることを本当に信念として思っているのか、信じているのが一番大事な気がします。伝え方の上手い下手などはいろいろありますが、最後は信念の強さだと感じています。

田中： 本当に、今回のビブリオバトルでそれを痛感しました。

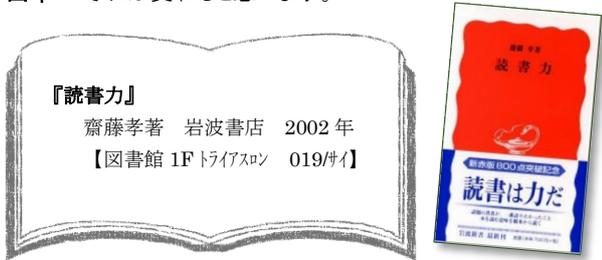
「広島市立大学の学生はよく本を読んでいるね」というふうになってほしいんです。それはやっぱり私達教員が読書の力を信じているから。(学長)

学長： それは本当に素晴らしい勉強になりましたね。

ところで、本学では「いちだい知のトライアスロン」の事業をやっていますが、とにかく僕は本学の学生には本をたくさん読んでもらいたいと思っています。今は学生だけでなく大人も、電車に乗ろうが、何に乗ろうが、みんな携帯を触りますよね。そんな中、「広島市立大学の学生はよく本を読んでいるね」というふうになってほしいんです。それは、僕をはじめとして、やっぱり教員が読書の力というものを信じているからなんです。

岩波新書、中公新書などの新書は、いろいろな学問の入門書になっていることが多いのだけれど、例えば、それを年間50冊読んだら、在学中に新書200冊を読んだとしたら、その学生はどうなるんだろう。『読書力』を書いた齋藤孝さんも言ってますけど、恐らく新書を読んでいない学生に比べて、ポキヤブラー、考え方など、全然違うだろう。ひょっとして、面接なんかでも顔つきさえも違うかも。読書って、4年間で200冊も300冊も読めば内面が変わりますよね。

田中： それは変わると思います。



学長： また、1冊の本を読んで質的に変わるという面もあるけれど、量を読むことも大事で、何百冊と大量に読むことで、内面の質が変わることはあるはず。恐らく、一般の大学生と全然違った大学生が出来上がると思っているんです。

田中： 読書によって。

学長： そう。私がいくら言っても、「学長、また言ってる」と言われるかもしれませんので(笑)、田中さんみたいに、学生自らが、「この本おもしろいよ」とか、勧めてもらいたいですね。

田中： そういう意味で「知のトライアスロン」をやっているんですね。在学中に多くの読書、映画、美術展鑑賞を勧める「いちだい知のトライアスロン」は、すごく良いシステムだと思います。私はオープンキャンパスでここに見学に来たときに知り、「何て私に向いている。私のためのシステムじゃないか！」と思いました。読書も、映画も、美術展も好きなんです。特に本が好きでしたので「これは知の鉄人を目指さない！」と。市大に入ってから、今、ちまちまと知トラの読書記録をためていってるんです。

本を読むことで得られる豊かさを知り、そのことを伝えることができる学生が増えてほしいと思っています。(学長)

学長： ぜひ、田中さんにも力を貸してもらいたいですね。知の鉄人になるとともに、ビブリオバトルにも挑戦して。本を読むことで得られる豊かさ、ある意味知的なプライドのようなものがありますよね。僕が若い頃は、友人の部屋に行くときまず本棚に何が並んでいるかを見て、「負けてるな」と思ったり、自分の本棚には見栄を張って難しめな本を並べたりしていましたね。めっちゃくちゃ難解なものを、本当はどこが良いのか全然わかってないんだけど(笑)。例えば映画であれば、「鈴木清順監督の映画『ツイゴイネルワイゼン』、あの映像はすげえよな」と見栄を張って話すとか、しました(笑)。でも、知的な見栄を張ることは、今の学生にもあってほしいと思います。そういうことはすごく大事で、あの本を読んでおこうとか、あの映画を観ておこうとなるので。本の場合も、「あれ、俺ようわからなかったけど、読み通せなかったけど、やっぱりそれじゃあだめだ。根性入れてもう1回読み通そう！」とか。少し見栄を張ることで自分を作っていった気がするわけですよ。

ライブラリー・アシスタントをしても、新書や小説を借りる人が少ないと感じています。もっと読んでもらいたいです。(田中)

田中： 今、ライブラリー・アシスタントをしているのですが、窓口で返却図書を受け取る中で、新書や小説を借りる人が少ないと感じています。もっと読んでもらいたいです。

学長： “勉強本”しか借りないんだね。

田中： そうですね。だからもっと小説とかを読んでもらうにはどうしたらよいかを、バイト中に考えたりしています。ただ私ひとりの力ではどうにかできるのか？というところも感じていて…。

学長： そうですね。僕は学生の立場から、そういうことを伝えることができる人が欲しいと思っています。実は大学の中にそういう学生たちが活動をする塾のようなもの「広島市立大学塾(仮称)」をつくらうとしていて、ぜひ、田中さんにも参加していろいろな経験をしてもらいたいですね。例えば、貧困、障がい、ボランティアなど、社会のいろいろな問題に関わり、その活動を通して自分の専門能力をどう生かしていくのかを学生が考えていく塾です。頼もしい学生、将来を托せる学生、ぜひそういう学生を目指してほしいです。ぜひ応募してほしいですね。

田中： ぜひ参加させていただきたいです。今日はいろいろなお話が聞けてよかったです。

学長： こちらこそ、ありがとう。

対談日
2017年1月13日

写真
青木信之学長と田中優菜さん



対談 KEYWORDS

ビブリアバトル

各自お勧めの本を持ち寄り、その魅力を紹介し合い、最後にどの本が一番読みたくなったかを投票で決めるゲーム感覚の書評合戦。

「書評を媒介としたコミュニケーションの場作り手法」として考案され、図書館を中心に広く行われるようになりました。

ライブラリー・アシスタント (通称・LA)

図書館での学生協働として、昨年10月から導入された学生アルバイト。

主に18時以降の窓口業務を担当します。学生の視点での気づき等を「利用サービス向上」へ還元する役割も持っています。

★最新情報は「いちだい知のトライアスロン」Webサイト
<https://triathlon.hiroshima-cu.ac.jp> でご確認ください。

いちだい知のトライアスロン

本学全体で取り組む、読書・映画鑑賞・美術鑑賞推進事業。大学での学習で必要となる自ら「知る」・「考える」・「伝える」能力の向上と、幅広い知識を身につけることを目指しています。トライアスロンコース完走者は、「知の鉄人」として表彰されます。



【予告】出張講座@八丁座

映画「花戦さ(はないくさ)」講演&上演会

日時：2017年6月24日(土)

午前9時30分～(予定)

会場：八丁座(福屋八丁堀本店8階)

講師：国際学部 佐藤 深雪 教授

池坊専好の「生け花」に焦点をあてた、痛快時代劇エンターテインメント。各界トップスターが集結し「本物の日本文化」を魅せる。

(映画公式サイトより引用)

※入場無料

※事前に申込みが必要です。

図書館カウンターでお申し込みください。

大学での学び方

『大学生のための知的技法入門』第2版

佐藤望編著；湯川武，横山千晶，近藤明彦著
 慶應義塾大学出版会 2012年【図書館3F参考書 377.15/サ】

『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』

松本茂，河野哲也著 **改版第2版**
 玉川大学出版部 2015年【図書館3F 809.6/マツ】

『大学生のための論文・レポートの論理的な書き方』

渡邊淳子著 研究社 2015年【図書館3F 816.5/ワタ】

『論文の教室：レポートから卒論まで』新版

戸田山和久著 NHK出版 2012年
 【図書館3F参考書 816.5/トダ】

広島を知る

『図録原爆の絵：ヒロシマを伝える』

広島平和記念資料館編 岩波書店 2007年
 【図書館3F・図書館1Fトライアスロン 319.8/ヒロ】

『宮島杓子の本：宮島には杓子がいっぱい：

杓子専門店・店主が伝えたい歴史』

宮郷彰通著 ザメディアジョン 2015年【図書館3F 383.8/ミヤ】

『カーブ愛。：広島はなぜ「人作り」が優れているのか：76の思考』

衣笠祥雄[著] 青志社 2015年【図書館1Fトライアスロン 783.7/キヌ】

『ひろしま通になろう：認定試験公式テキスト』一部改訂版

中国新聞社 2008年【図書館3F 291.76/ヒロ】

新入生へのおすすめ本

～学生生活の始まりに～

学生生活

『はじめてのキャンパス・ライフ』

山本幸子 [ほか] 著 創成社 2010年【図書館3F 377.15/ヤマ】

『就活難民にならないための大学生活30のルール』最新版

常見陽平著 主婦の友社 2014年
 【図書館3F 就職関係図書 377.9/ツネ】

『大学生のためのソーシャルスキル』

橋本剛著 サイエンス社 2008年【図書館3F 377.9/ハシ】

『ブラックバイトに騙されるな!』

大内裕和著 集英社 2016年【図書館3F 377.9/オオ】

知的なお出かけに

『広島県謎解き散歩』

松井輝昭，池田明子編著
 新人物往来社 2011年【図書館3F 291.76/マツ】

『美に誘う：中国地方の美術館』

中国新聞社 2003年【図書館3F 706.9/ビニ】

「キャンパスメンバーズ制度を利用してみよう!」

ひろしま美術館・広島県立美術館では、入館の際に広島市立大学の学生証または身分証を提示すると、常設展・特別展を無料で鑑賞することができます。

わたしの一冊

国際学部 古澤 嘉朗 准教授

『社会貢献でメシを食う。』

竹井善昭著 ダイアモンド社 2010年

「国際協力に関心がある」と学生から相談を受けますが、そんな私も昔は同様の関心を持つ学生の1人でした。自身の経験も踏まえてですが、関心を持つことはあくまでも第一歩に過ぎません。大切なことは関心を更に掘り下げることです。その際に(1)国際協力のどの分野に関心があるのか、(2)どう関わりたいのかが鍵になります。

(1)は大学4年間という時間を使って各自が関心を深める以外に方法はありませぬ。他方、(2)は就活前に考えておくことが重要です。

本書は(2)について、つまり国際協力で「メシを食う」ための選択肢をわかりやすく解説しています(注)。それは「NGO/NPOに就職する」、「企業の力で社会貢献」、「社会起業家になる」や「プロボノという働き方」といった章構成にも反映されています。

本書の背景には、先進国から発展途上国へ流れる資金の中で政府開発援助の占める割合が7割から3割に減少し、民間資金が7割へ増加した逆転現象が挙げられます。一昔前と比較すると、現在は各自のライフスタイルに合った国際協力の模索が可能になった時代とも言えます。

このような時代を生きていく上で、著者は「プロフェッショナル」になることを推奨します。ただ、どうすればプロフェッショナルになれるかまでは書いていませんし、どの分野のプロフェッショナルかは各自の関心次第です。また、本書は政府機関や国際機関について触れていませんが、1冊の本が全ての悩みを解決してくれることはありません。国際協力に関心があるのであれば、最初の1冊として手に取るにはお勧めの1冊です。

注：本書の場合、「社会貢献」は「国際協力」と読み替え可能。



この本は図書館1階「いちだい知のトライアスロン」コーナーにあります。ご利用ください。

【トライアスロン 335.8/タケ】※【 】内は配架場所と請求記号です。

LOOK HERE!

● 春休みに借りた本の返却期限について

春休みの特別貸出で借りた本の返却期限は、4月17日(月)です。返却期限を過ぎた資料が1冊でもあると、新たな貸出ができなくなります。授業やレポート作成の直前に慌てることのないよう、期限までに返却を済ませましょう。

● 開館時間の延長について

4月17日(月)から7月20日(木)まで、通常期の開館時間を20時まで臨時延長します。なお、延長開館日(臨時)の19時以降は、館内資料のコピーや相互利用(ILL)サービス等、一部ご利用いただけないサービスがあります。詳しくは図書館Webサイト・館内掲示をご確認ください。

● 「いちだい知のトライアスロン」新Webシステムについて

「いちだい知のトライアスロン」が新Webシステムに移行しました。詳しくは「いちだい知のトライアスロン」Webサイト <https://triathlon.hiroshima-cu.ac.jp> をご確認ください。

附属図書館の情報はココをチェック!

Webサイト: <http://www2.lib.hiroshima-cu.ac.jp/> Twitter アカウント: 「@HiroshimaCU_lib」

いちだい 市大コーナー新着図書

市大コーナーでは、本学の先生や卒業生が出版した本や各学部の紀要などの大学の出版物を紹介しています。

『ドイツの平和主義と平和運動：ヴァイマル共和国期から1980年代まで』 竹本真希子著 法律文化社

『戦後70年を越えて：平和と軍縮に向けた論点と課題』(平和研究所ブックレット vol.3)

広島平和研究所編集 広島市立大学平和研究所

編集後記

今号はフロア紹介と学長対談レポートの特集2本立てでお送りしました。巻頭のフロア紹介とQ&Aは、「市大図書館ガイドの鉄板」です。慣れるまで靴の中のスタメンにしてください(笑)。対談レポート中に「本を読んだ4年間と読まなかった4年間では、きっと全然違うはず」という学長の言葉があります。4年後、皆さんが学生生活を振り返るとき、図書館や本が自然と出てきてくれることを願っています。皆さんの居場所にぜひ図書館も加えてください。Enjoy your "ICHIDAI" life!!

2017年4月1日発行

広島市立大学附属図書館

広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

TEL : (082) 830-1508

FAX : (082) 830-1659

E-mail toshoh@lib.hiroshima-cu.ac.jp

<http://www2.lib.hiroshima-cu.ac.jp>